

オーディオ M ファーストフィット

この紙面では、フォナック オーディオ M（以下、オーディオ M）のファーストフィットおよび互換性のあるアクセサリとの設定方法について説明しています。スマートフォンとのペアリング作業につきましては、端末によって設定方法が異なりますので、使用端末の取扱説明書をご確認ください。

セットアップ

まず初めに、お使いのパソコンにバージョン 6.0.2 以上の Phonak Target をインストールしておきます。（2019 年 7 月現在の最新バージョンは 6.0.2）

❖ Noahlink Wireless（ノアリンクワイヤレス）の設定

オーディオ M をフィッティングする前に、フィッティングに必要となる接続機器【ノアリンクワイヤレス】のセットアップを行います。設定方法に関する詳細は、別資料『ノアリンクワイヤレスの設定』をご確認ください。

（AirLink2 のアップグレードについては掲載しておりません）



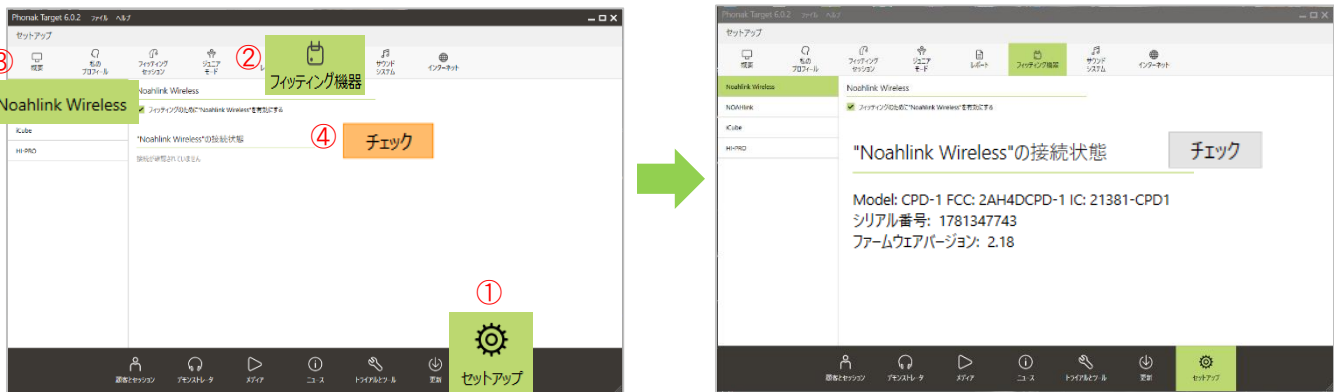
1) ノアリンクワイヤレスのドライバーをインストールします

- a. Phonak Target の中に入っているファイルからインストールします
 - Phonak Target > support > HIMSA > Noahlink Wireless > 【Driver_NLW_V.1.1.0.0.exe】

2) 同梱されていた USB ケーブルをノアリンクワイヤレスに差し、ケーブルの逆側をパソコンの USB ポートに差します

3) Phonak Target を起動し、ノアリンクワイヤレスの接続状態を確認します

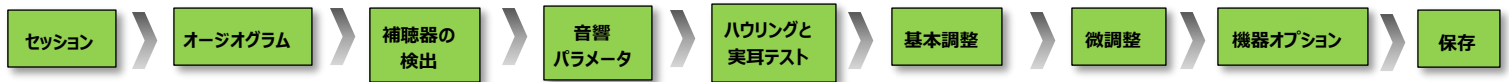
- a. ①【セットアップ】> ②【フィッティング機器】> ③【Noahlink Wireless】画面にある**オレンジ色の**④【チェック】をクリック
 - 機器が正しく認識されると、【チェック】が**グレー**色に変わり、機器情報が表示されます



※ **ノアリンクワイヤレスのファームウェアバージョンが古い場合はアップデート（更新）してください。**

ノアリンクワイヤレスのバージョンが 2.17 以下の場合、Phonak Target > トライアルとツール > ファームウェアのアップデート > Noahlink Wireless の【**アップデート**】をクリックし、本体のファームウェアバージョンが **2.18** になるようアップデートを行います。設定方法に関する詳細は、別資料『ノアリンクワイヤレスの設定』をご確認ください

フィッティング ファーストフィットの流れ



セッションを開く

スタンドアローンの場合：

Phonak Target を起動します。

- ① 初めてフィッティングする場合は【新規顧客】をクリックし、顧客データを作成します。



↑ 上記画面は顧客データが未登録の場合：

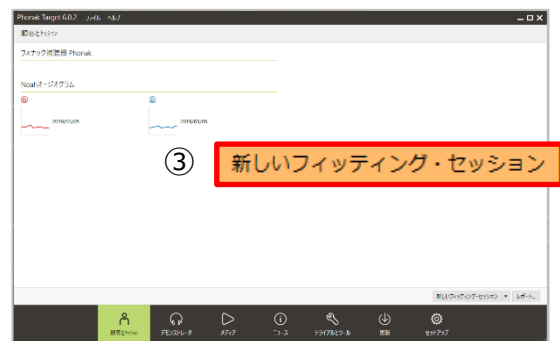
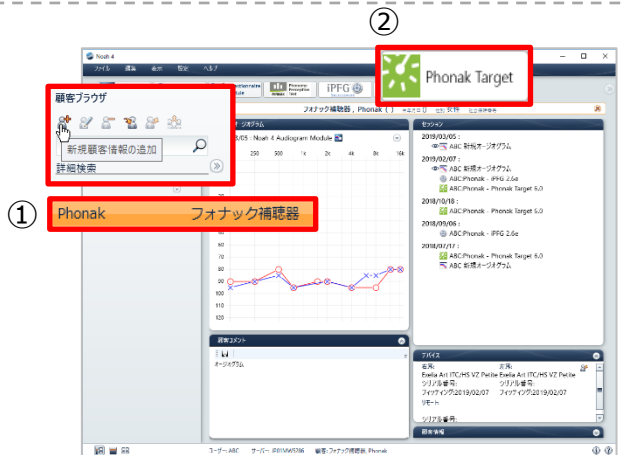
- ② 顧客が選択されているのを確認し、【新しいセッション】をクリックします。



NOAH System の場合：

NOAH System を起動します。

- ① すでに顧客データがある場合は該当顧客を選択します。初めてフィッティングする場合は【新規顧客情報の追加】をクリックし、顧客データを作成します。
- ② 顧客が選択されているのを確認し、上段から【Phonak Target】をクリックして起動します。
- ③ 【新しいフィッティング・セッション】をクリックし、セッションを開きます。



オーディオグラムを入力

【顧客】タブ>【オーディオグラム】画面から聴力レベルを入力します
(スタンドアローンの場合)。

- NOAH System の場合はオーディオグラム入力専用ソフト【Audiogram Module】を使い、Target を起動する前に聴力レベルを入力します。



※ 画像は Standalone で表示した場合

補聴器の検出

接続機器を【Noahlink Wireless】に設定します。

- リストに該当機器が存在しない場合、セッション外にある【セットアップ】>【フィッティング機器】>【Noahlink Wireless】画面を開き、【有効にする】に✓を入れます（1ページ目を参照）。



まず、補聴器をペアリングモードにします。

【充電タイプの場合】

初めてペアリングする場合、補聴器をチャージャーケースから取り外すと自動的に電源オンになって、ペアリングモードになります。



【空気電池タイプの場合】

初めてペアリングする場合、電池ホルダーを開閉するとペアリングモードになります。

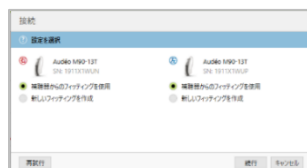


そして、**オレンジ色の** **接続** をクリックして補聴器を検出します。検出できない場合は、再度ペアリングモードにしてから再検出してください。

補聴器が検出されたら、使用する左右を正しく選択します。補聴器の多機能ボタンを押すと、左右が画面上でハイライトされます。

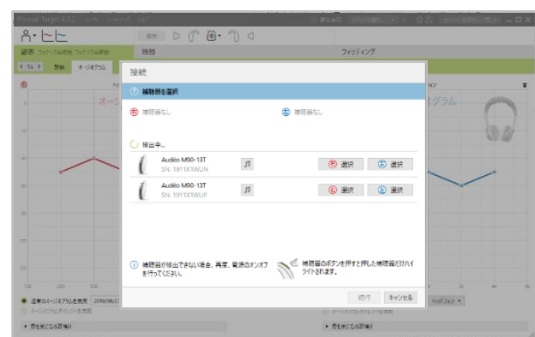
初めて補聴器を接続すると、補聴器の装用経験を選択するプルダウンが表示されます。この選択で利得レベル（%）が決定されます。

- 2回目以降の接続は、右図のように
- ①補聴器からのフィッティングを使用
 - ②新しいフィッティングを作成
- どちらか選択する文言が表示されます



接続に成功したら、【閉じる】をクリックしてフィッティングを始めます。

例：オーディオ M90-13 の場合

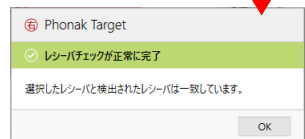
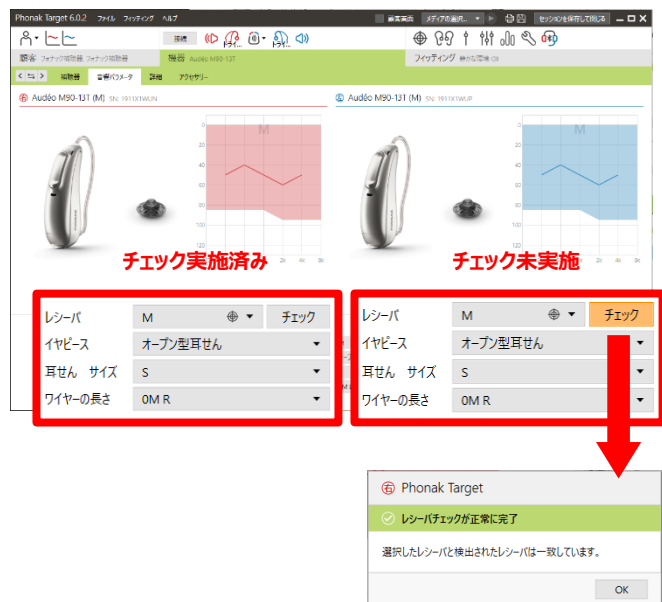


音響パラメータ

補聴器が接続されると、「機器」タブ>【音響パラメータ】画面に自動的に移動します。同時に、レシーバチェックも行われます。自動確認された内容が正しいか確認します。

- カプラを変更する場合、表示されたレシーバと実際に使用しているレシーバが合致しているか **チェック** を押して確認します。
(チェックの色： **橙**...未実施、**グレー**...実施済)

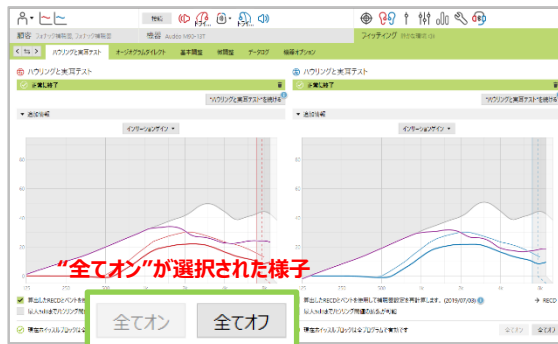
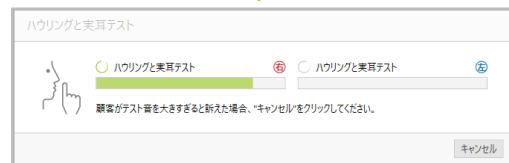
- レシーバチェックで右図のようなメッセージが表示されたら、補聴器に取り付けられているレシーバと、音響パラメータ画面に表示されたレシーバが合致しているか確認してください。



ハウリングと実耳テスト

【フィッティング】タブ>【ハウリングと実耳テスト】画面に移動し、画面に表示される **両耳で開始** をクリックしてテストを行います。

- このテストを実施することで、ファーストフィットの正確性およびハウリング抑制の安定性が向上します。
- **両耳で開始** を選択しても、テストは片耳ずつ順に実施されます。
- テストに失敗した場合は、再度行るか、画面下にあるホイッスルブロックを“オン”にします。

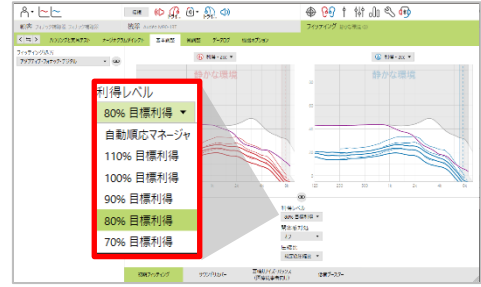


基本調整

【フィッティング】タブ>【基本調整】>【初期フィッティング】>【利得レベル】に選択された目標利得を確認します。

(補聴器接続時に選択した装用経験に基づき、自動選択されています)

プルダウン▼から選択して変更することも可能です。

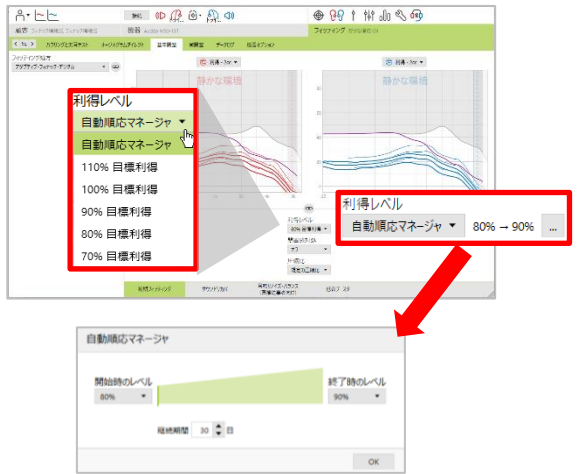


ステップ UP ポイント

<自動順応マネージャ>

同画面において、使用時間や日数に合わせて利得レベルを徐々に変えていく【自動順応マネージャ】を使用する場合、予め、【ハウリングと実耳テスト】を行っておく必要があります。

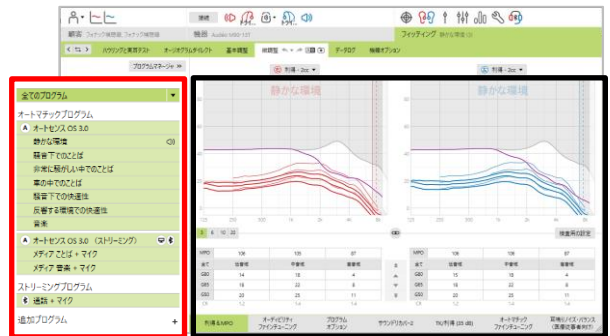
- 利得レベルのプルダウン▼をクリックすると、目標利得と並んで“自動順応マネージャ”の文言が表示されます。これを選択すると、予め選択された装用経験に基づき、最初の目標利得が提示されます。
- 開始時と終了時の目標利得レベルの変更は ... をクリックし、プルダウン▼から選択します。継続期間は 7 日～800 日間から選択できます。



微調整

【フィッティング】タブ>【微調整】>【利得 & MPO】画面に移動し、設定プログラムを確認します。

- 左側がプログラムリストで、中央と右側が特性です。
- A オートセンス OS 3.0 下に並んだ複数プログラムは、これら全てを含めて 1 モードとして作動します。
- プログラムマネージャ をクリックすると、プログラムの詳細内容を確認できます。

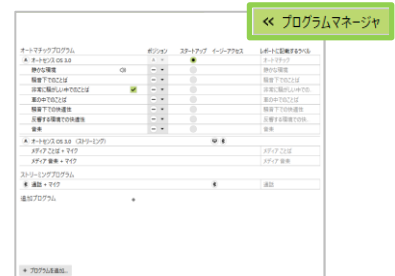


左側：プログラムリスト 中央&右側：補聴器の特性

オーディオ M プログラム構成 (初期設定)

全てのプログラムは大きな 3 つの項目に分かれています：

- ① オートマッチックプログラム：
 - オートセンス OS 3.0
 - オートセンス OS 3.0 (ストリーミング)
 - ・メディア ことば+マイク
 - ・メディア 音楽+マイク
- ② ストリーミングプログラム： 通話+マイク
- ③ 追加プログラム： なし



プログラムマネージャを開けた状態

ステップ UP ポイント

<プログラム追加または変更>

プログラム追加または変更をする場合、**プログラムマネージャ** をクリックし、プログラムの詳細画面を開きます。

- 追加プログラム横にある **+** をクリックするか、プログラムマネージャ画面左下にある **+ プログラムを追加...** をクリックし、プログラムを追加することが可能です。
- 追加した順に①から番号が割り当てられます。(①はオートマッチ)
- プログラムの順番変更はポジション列のプルダウンから行います。(最終的なプログラムの順序は「機器オプション」のイラスト画面横の説明表示から確認できます)



- スタートアップに●が付いているプログラムが、電池ホルダーを開けて最初に作動するプログラムです。

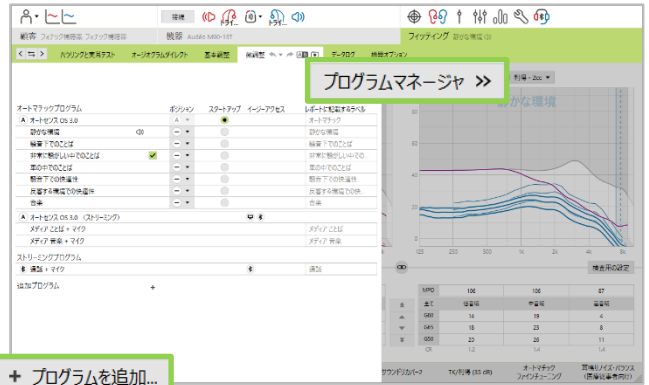
オーディオ M プログラム構成サンプル (プログラム追加後)

- ①オートマッチプログラム：
 - オートセンス OS 3.0
 - オートセンス OS 3.0 (ストリーミング)
 - メディア ことば+マイク
 - メディア 音楽+マイク
- ②ストリーミングプログラム： 通話+マイク
- ③追加プログラム：
 - 公共設備用 T コイル+マイク
 - 全方向 (360°) からのことば

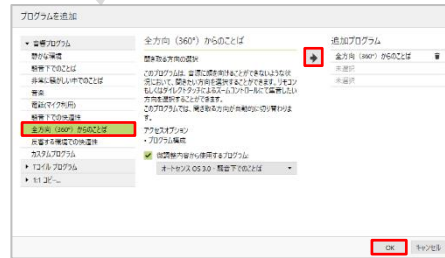
<プログラムオプションの確認>

各プログラムのサウンドクリーニング機能（ノイズブロックやウィンドブロックなど）を確認する場合、左側のプログラムリストから該当プログラムをクリックした後、**【プログラムオプション】**画面を開きます。

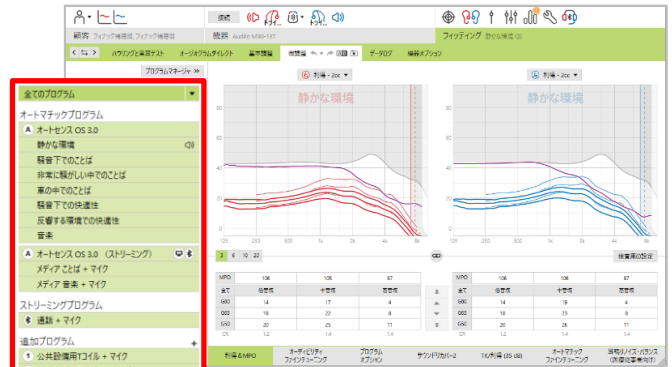
- スライダーを左右に動かして変更します。



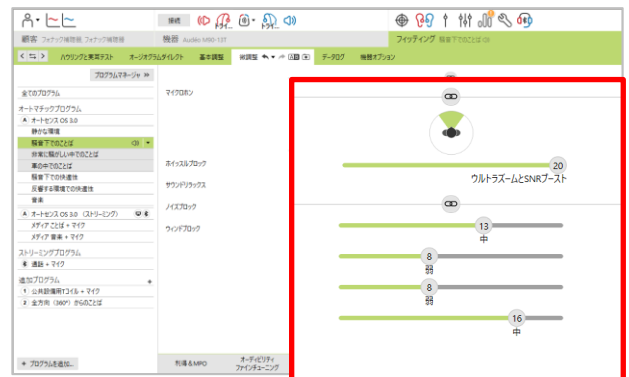
プログラムマネージャからプログラムを追加



プログラムを追加すると・・・



追加したプログラム



機器オプション

<多機能ボタン>

【フィッティング】タブ>【機器オプション】>【多機能ボタン】画面に移動し、ボタンの作用を確認します。

多機能ボタン（初期設定）

初期設定では次のように設定されています：

短押し：ボリュームの上下

長押し：プログラムを変更する

- 「受話/着信拒否」に✓を入れることで、補聴器の多機能ボタン（下部ボタン）を押して携帯電話からの着信を受けることができます。
※ ここに✓が無いと、補聴器で着信を受けることができません。
- 画面右側にある **補聴器の状態** からプログラムの作用を確認することが可能です（右図参照）。
- 左右別に音量を設定することはできません。左右別に音量を変えたい場合は、リモートアプリをご使用ください。



標準



ストリーミング



通話

<Bluetooth>

【機器オプション】>【Bluetooth】画面で、Bluetooth 受話耳を変更することが可能です（初期設定は右）。



<お知らせ音と警告音>

【機器オプション】>【お知らせ音と警告音】画面に移動し、補聴器から提示するピープ音の設定状態を確認します。

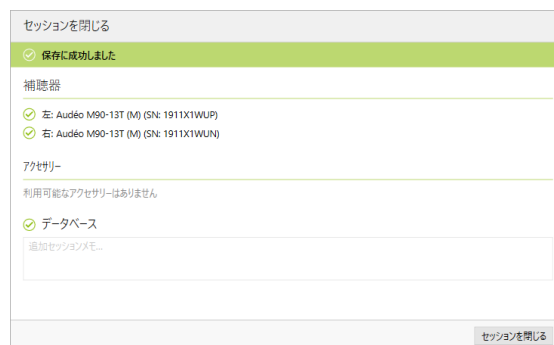
- 『一般的なアラート』横の **🎵** をクリックし、『低電圧』を選択すると、補聴器接続時であれば、補聴器からデモ音が提示されます。
- 音量はピープ音の大きさ、周波数はピープ音の高さを示します。（項目別に設定することはできません）



保存

画面右上にある **セッションを保存して閉じる** をクリックし、補聴器とデータベースに を付けて【**保存**】をクリックします。

- 保存に成功したら、【**セッションを閉じる**】をクリックしてフィッティングを完了します。



フィッティングを行った後は・・・

● 携帯電話との Bluetooth®ペアリング

初めて補聴器と携帯電話をペアリングする際、予めフィッティングソフトで Bluetooth 受信側に設定した補聴器をペアリングモードにしてから、お使いのスマートフォンの Bluetooth®画面を開きます。ペアリングモードは、補聴器をチャージャーケースから取り出すか、電池ホルダーを開け閉めするとなります。設定した受信機側の補聴器 1 台が Bluetooth 画面に検出されます。

【充電タイプの場合】

初めてペアリングする場合、補聴器をチャージャーケースから取り外すと自動的に電源オンになって、ペアリングモードになります。




【空気電池タイプの場合】

初めてペアリングする場合、電池ホルダーを開閉するとペアリングモードになります。



● テレビコネクターDとのペアリング

初めて補聴器とテレビコネクターDをペアリングする際、機器から 1m 以内に補聴器を近づけてテレビコネクターDの接続ボタン  を押します。ペアリングが成功すると、補聴器からビープ音が提示されます（詳しくはテレビコネクターDの取扱説明書をご参照ください）。

● リモートアプリとのペアリング

初めて補聴器とリモートアプリをペアリングする際、起動したアプリ内でペアリング作業を行います（詳しくはリモートアプリ クイックガイドをご参照ください）。